

語り部研修会 2024

参加無料

3.17 日

マービーふれあい
センター

午前の部

10:00~12:00 研修室

伝わらなかった先人の思い----- 水害常襲地の歴史を伝えるために



の常夜灯に天保9年(1838年)と刻字されていることが
おそらく同年代か、それより以前と思われる。

①明治期の水害後の高台移転の歴史を探る
高杉 正さん 大熊正喜

②水害と治水の史跡にQRコード付き看板を建てよう

有井「大日庵」の「溺死群霊の墓」を調べる
森脇 敏さん



午後の部

13:30~16:00 展示室 (展示会場内)

東日本大震災から13年、伝承の取り組みから学ぶ

東北現地視察の報告と話し合い

報告=福井圭一さん (真備写真洗浄)



真備で写真洗浄の活動を続けている福井さんは、2018年の水害直後の真備に入る前の六年間、岩手県の釜石や陸前高田で写真洗浄のボランティアをしていました。

昨年10月、久しぶりに岩手を訪ね、10日間かけて北から南まで巡って1000枚の写真の撮ってきました。その視察の中でも、一番びっくりして考えさせられたのが釜石・鶴住居地区の災害伝承施設でした。

また、2月にも宮城を訪れ、石巻の大川小学校跡などの伝承施設を見て回ることにしています。13年後の今、まちはどう変わったか? 災害伝承への住民の意識や取り組みに変化はあったか。見聞きしたそんなことを報告していただき、私達自身の「伝承」の課題を話し合います。

【主催】語り部ネットワークまび

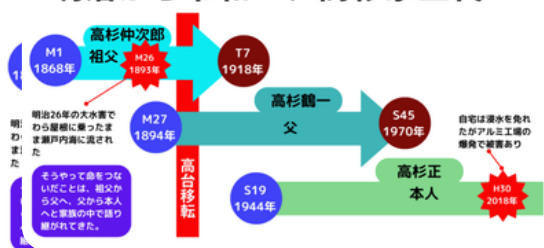
☎ 090-3639-0993 大熊

倉敷市市民企画提案事業

内容

語り部研修会2024/3/17 午前の部 10:00-12:00

明治から令和へ、高杉家三代



午前

1

高杉 正さん

明治期の水害後の高台移転の歴史を探る

親から子へ、子から孫へ、家族の中で語り継がれた大切な記憶と教訓

真備町辻田地区にお住まいの高杉正さん(79歳)の祖父・仲次郎さん(明治元年生まれ)は25歳のとき明治26年の大水害で家を流され、わら屋根に乗って水島沖まで流され幸いにも助けられた。その後、被災に懲りた家々は移築先を山際の比較的高所に变え、高杉家も現在の場所に移転し、平成の水害では水没を免れた。祖父の話は物心ついてから、事あるごとに両親から聞かされてきた。「あの時お祖父さんが助からなかったら、お前はこの世にはいなかったんだ。」と言われたことが心に残っている。

平成の大水害を経験し、水害常襲地で命を繋いできた先人たちの想いととも、これらのことを後世に伝え残していきたいと思っている。

ここで、自分以外にも水害に懲りて先祖が高台に移転した家々が、真備の各地にあるのではとの高杉さんからのご指摘で、倉敷市歴史資料整備室にもご協力を得て「高台移転」の歴史を調べたので報告し、ご家族の中で伝わってきた命をつなぐ物語を、参加された皆様と一緒に掘り起こしたいと考えている。

午前

2

森脇 敏さん

水害と治水の史跡にQRコード付き看板を建てよう

岡田地区水除堤に続いて、有井「大日庵」の「溺死群霊の墓」を調べる



「まび創成の会」では、昨年5月には江戸時代に岡田藩の陣屋町を水害から守るために囲んでいた「水除堤」跡の二箇所にステンレス製の看板を建て、施設の説明文を刻むとともに、QRコードを貼付け、地元の小学生がこの場所を説明する動画にリンクするようにした。

今年、明治13年と五年前の平成大水害で二度にわたり同じ場所が決壊した有井地区・末政川西岸の大日庵に明治の水害の直後に建てられた「溺死群霊の墓」と刻まれた石碑に注目している。倉敷市歴史資料室の資料では、石碑の裏に刻まれた文言の中に、亡くなられた三十三名の追悼とともに以下のような一節がある。

▼・・・この界において最も巨益有るは何と日わば水火風三大これなり、然るに害を為すはこれなり、それ巨益有らば必ず巨害を為す、これ自然の理なり・・・

(現代語訳 この世界において最も巨大な利益は何でしょうか？それは水、火、風の三つです。しかし、これらが害をもたらすこともあります。巨大な利益があれば、必ず巨大な災害も生じるものです。これは自然の法則です)

山からの洪水流がもたらした平らで肥沃な土地に、川とともに暮らしてきた先人たちの自然と向き合う思想がここに込められている。

明治13年この地区で33名の犠牲者を出した末政川の決壊、そして、五年前再び決壊したこの場所に立つ石碑、先人の想いを受け止め未来につなぐために私達の出来ることを話し合ひましょう。